

東京連盟「進歩に関する研究集会」
進級・進歩促進のための
スカウトハンドブック活用
-スカウティングは素晴らしい！-

日本連盟 プログラム委員
神保 雅弘



そなえよつねに
ボーイスカウト

はじめに

不便益って知っていますか？

世の中には便利なものがあふれています。
その代表的な例がスマートフォン
これがあると自分で考えなくてもよいですね。
それって本当に良いことなの？



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

不便益のすすめ

スカウティングはまさに不便益
不便をたのしむことに、活動の魅力がある。

考えてみてください。

便利＝楽しい、幸せ ？

不便＝面白くない、不幸？



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

スカウトスキルで養われる力

・読図法

- ・ GPSがある現代で、地形図を読める必要があるでしょうか？
- ・ 地形図を読むことで何が得られるでしょう。
- ・ 道に迷わないだけでなく、緻密さ・推理力・俯瞰する力などの能力



スカウトスキルで養われる力

- 観察
好奇心・観察力(情報収集・分析力)...
- 手旗信号
集中力・短文構成力・推理力...
- ロープワーク、パイオニアリング
集中力、計画性、責任感...



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

読書で養われる力

- ・ 語彙力が上がる
- ・ 文章力が向上する
- ・ 知識が深まる
- ・ 想像力がつく
- ・ 視野が広がる
- ・ 生き方が学べる
- ・ 思考力が向上する
- ・ 記憶力が向上する

・ 理解力、想像力、論理的思考力

スカウトハンドブックを読もう



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

本日のトピックス

- i . ハンドブックのコンセプト
- ii . ハンドブックの特徴
- iii . ハンドブックの活用
- iv . ベンチャーの活動
- v . 進級・進歩促進のために



そなえよつねに
ボーイスカウト



i. コンセプト

- ・新スカウトハンドブックは
現代の

「スカウティング・フォア・ボーイズ」



スカウトたちがハンドブックを読み自分たちの思うように活動することでスカウティング本来の魅力がもたらされるよう編集をしている。



そなえよつねに
ボーイスカウト

i. コンセプト

- スカウトハンドブックは「ベーシック」と「アドバンス」で完全に対をなすもの。

それぞれのハンドブックが補完しあいジュニアリーダーを通じて関連付けられ一体となっている。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト



i. コンセプト

- 「ベーシック」

基本的な技能を中心にボーイスカウト年代向けに編集され野外技能を中心に

ビジュアル的な表現を行い「見る」ことで理解できる

スカウティングの百科事典。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト



i . コンセプト

- 「アドバンス」

スカウティングの技能を応用した活動を目指す
ベンチャースカウト年代向けに編集。

- 年代に応じた、しっかりとした「読み物」として作られている。
- 現代の「スカウティング・フォア・ボーイズ」である。
- スカウトとしての生き方を書いた哲学書でありリーダーシップの書であり、良き公民へのガイドの書である。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト



ヒデト次長



ii. 特徴

- シームレス化された進歩制度に沿って構成されている。
- 「ベーシック」は菊スカウト章まで、「アドバンス」は隼スカウト章、富士スカウト章の項目に対応してそれぞれの進級章の取得を可能にさせる。
- 進歩の手引き、スカウト進級手帳と連動して両ハンドブックとともに活用することでスカウト自治による隊運営が可能になるように作られている。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト



キムラ班長



ヒデト次長

ii . 特徴



ミドリ



マサヒロ

- 「ベーシック」「アドバンス」を通して各章には「**キャンプファイア物語**」として活動を具体化した読み物を用意している。
- 「ベーシック」では登場人物が直接スカウトに語り掛けるように構成している。
- 「アドバンス」ではB-Pの著書を読むような感覚になるように構成している。



ii . 特徴

- ハンドブックの中の活動をまねてみることで実際の活動が展開できるように工夫を凝らしている。
- 本ハンドブックを活用することで指導者による指導に偏重することなくスカウト自身による自発的な活動の下地ができるように工夫をしている。



ii . 特徴

・スカウトの体験談を掲載

「ちかい」と「おきて」の実践を中心に実際の体験談を掲載している。日常のスカウティングの中の実践を意識できるように掲載され各隊への文化へつながるように工夫している。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

ii . 特徴

- ・各項目は独立して読むことができる。

それぞれの項目は個別に読んでも理解できるように書かれているため必要なことだけ読むことで活動を進められる。



ii . 特徴

- それぞれの内容が補完しあうようになっている。

全体を通して読み込めば深い考えが理解できるようになっている。基本的には自分で自分の人生を考えられるように内容は導かれている。



ii . 特徴

- ・ジュニアリーダーの活動をすることで効果が発揮できる。

「アドバンス」で学んだことをボーイスカウト隊で「ベーシック」を活用をして後輩スカウトへ伝えることで先輩から後輩へ伝えるスカウティングの文化を構築することができるようになる。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

ii . 特徴

・「アドバンス」の中の大きなテーマ

B-Pのラストメッセージのなかの一文にある
「幸福に生きて幸福に死ぬために」どうすればよ
いかを「アドバンス」では説いている。

スカウトハンドブックを活用することでスカウト
たちが主体性をもち班活動を中心に自発活動を行
えるようになることで、B-Pの説く幸福への道につ
ながっていくようになる。テーマは「利他心」



そなえよつねに
ボーイスカウト

ii . 特徴

- ・スカウトハンドブックはスカウトの興味を引き出すように構成されている。教科書のようなものでなく、

スカウティングというゲームの手引書である。





ナカノ隊長

iii. ハンドブックの活用

- 「ベーシック」と「アドバンス」の両ハンドブックを**一体として活用する**ことが重要。
- 年代に応じて「アドバンス」へ進むがベンチャー年代であっても「ベーシック」は常に活用するハンドブックである。
- BS隊、VS隊の指導者はそれぞれのハンドブックをよく読み**両隊の関係性を理解をする**ことが肝要である。



iii. ハンドブックの活用

- ハンドブックをスカウトに読ますのではなくスカウトが**自主的に読むように導く**こと。

スカウトハンドブックを読みたくるように班制度と進歩制度を活用して動機付けを行う。

進級に連動したスキルの掲載してする部分の調べ方をスカウトに伝えることだけでも効果がある。



iii. ハンドブックの活用

- ・ハンドブックを隊で読み解く

議長、上級班長が中心にハンドブックを読み解き、口伝えで伝承していくことで
隊としての文化が形成される。



iii. ハンドブックの活用

- ハンドブックを活用して
活動に自由を与える。

ハンドブックを参考に自分たちで考えて自由に活動を形成できる環境を整えることが指導者の責務となる。



iii. ハンドブックの活用

- ・スカウトハンドブックの活用とは、スカウティングをスカウトの手に委ねること。

スカウティングとはイベント的なプログラムでもなければ、技能訓練のようなドリルでもない。
スカウトの班による自発活動である。



iii. ハンドブックの活用

- ・スカウトハンドブックに書かれていることは**基準ではなく基本である。**

基本を学び、班の創意工夫で
応用していくことがスカウティング
であり、「アドバンス」でさらにハ
イアドベンチャーに挑戦をする。



iii. ハンドブックの活用

- 指導者は、このようなスカウトハンドブックの特徴をよく理解して活用をすることでやがて伝承が生まれ、**隊や班に自治という文化**が形成されるようになる。隊や班の文化は活動を昇華させるようになる。



iii. ハンドブックの活用

- ・ ハンドブックはスカウト教育の2大制度をもって活用できるように開発しています。
- ・ 班制度（パトローリングシステム）
- ・ 進歩制度（バッジシステム）



iii. ハンドブックの活用

- ・ 班制度、進歩制度が活用される仕掛けとしてベーシックに「班長の手引き」という章を設けました。

ベーシック 第8章

「班長の手引き」 P360



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

iii. ハンドブックの活用

- ・先輩から後輩へ教え伝える文化を形成できるように構成しています。

キーワード

「恩がえし」

ベーシック P408

アドバンス P188



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

iii. ハンドブックの活用

- ・このような考え方のベースとなるものは奉仕の精神です。奉仕の精神を理解できるようにハンドブックの中にはあらゆる場面で導きを行っています。
- ・「ちかい」と「おきて」の実践を規範として班の一員として活動すると自然と備わる要素です。



iii. ハンドブックの活用

- ・ いろいろなところに「隊長の言葉」を散りばめています。

ベーシック P356 P363

アドバンス P30

ハンドブックを要約すると
あとがきを読んでもみましょう。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

iv . ベンチャーの活動

スカウトハンドブックの開発の経緯

- ・ スカウトの自発性を尊重したスカウト自身によるスカウティングが形骸化し、指導者の指導に偏重したスカウティングの現状が日本におけるボーイスカウトの大きな課題でした。

教育規程に見るボーイスカウト活動の実施

- ・ 活動は、班長を中心に班員が役割を分担する自治の仲間による班活動と、班が集まりスカウトが参加する隊活動によって行われる。
- ・ 班の運営に当たっては、班長が座長となる班会議において、また隊の運営に当たっては、上級班長が座長となる班長会議によって実施する。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

iv . ベンチャーの活動

- ・このような課題の解決のため、BS部門とVS部門が一体でシームレス化された進歩制度が導入されました。その中でジュニアリーダーの活用が大きくクローズアップされることになりました。
- ・隼スカウト章の目標として「スカウト技能を役立てることができ、ジュニアリーダーとして基本的な隊運営の知識を有し、健全な体と精神を身につけます。」とあります。
- ・このねらいは、まさにスカウティングをスカウトの手に委ねスカウトの自治の実現を行うことにあります。



iv . ベンチャーの活動

- ・スカウティングが自発的に行われるためには、指導者がスカウトに直接指導するのではなく先輩から後輩たちへスカウトの技能を伝えていく循環が必須です。
- ・スカウトに必要な絶対的な存在は班長であり、その班長が存在するためには班という存在が必須です。
- ・班が活性するためには、競争できる他の班の存在が必要でその複数の班を束ねる上級班長の存在が活動の活性にとっても有効になっていきます。



iv . ベンチャーの活動

- ・ 上級班長の活動時期はシームレス化された進歩制度の隼スカウト章の課目挑戦時期とリンクするように考えられています。
- ・ このことから読み取れるようにジュニアリーダーの活動はベンチャーの大きな中心的な活動と捉えるべきでありジュニアリーダーの活動がベンチャーの活動を阻害するものではないことが読み取れます。
- ・ さらに、深く理解するためには新進歩制度でのベンチャーの活動を理解する必要があります。



iv. ベンチャーの活動

- ・ベンチャーには大きな3つの特徴をもった活動があります。
 1. ジュニアリーダーの活動
 2. 隊集会を代表とした隊活動
 3. 高度な活動を代表とした活動チームの活動



iv. ベンチャーの活動

- 1. ジュニアリーダーの活動
 - 上級班長や隊付に代表される
ボーイスカウト隊のジュニアリーダー
 - ビーバースカウト隊のジュニアリーダー
 - カブスカウト隊のジュニアリーダー



iv . ベンチャーの活動

- ジュニアリーダーの活動は、指導者の小間使いでもなく単なる奉仕でもないベンチャーの重要な活動である。
- スカウトのキャンプへ今までとは違う形で参画をする。
- 進級やベンチャーの活動を阻害するものでは決してない。むしろ進級は促進されハイアドベンチャーの近づくための一番の道である。
- ジュニアリーダー（上級班長）が機能することで自発的なスカウティングの文化が形成される。



iv . ベンチャーの活動

- ・ スカウティングが活性できる環境とは先輩スカウトから後輩スカウトへ指導し自発的に活動する環境です。
- ・ その実現のために必要なことは、班の環境の整備とジュニアリーダーの育成がポイントになります。
- ・ ジュニアリーダーの活用そして育成のために準備されているものが「ジュニアリーダーの手引き」です。
- ・ 「ジュニアリーダーの手引き」がそろうことでスカウトハンドブックが完全なもととなります。



iv. ベンチャーの活動

・ 2. 隊集会、隊キャンプの隊活動

ベンチャーのキャンプは探検旅行

探検旅行はベンチャーの代表的な隊活動である。

自分たちの知らない未知の地へ探検へ出かけるのである。

探検旅行の基本は移動キャンプである。

このような活動を通してプロジェクト法を身に付ける。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

iv . ベンチャーの活動

- 隊全体で活動することに意味と意義がある。
- 隊活動を行うことで隊運営が円滑に進むようになる。
- 先輩から後輩へ活動のノウハウを伝授していくことで、活動がより高度なものへと進化していく。
- 隊活動を通して自分のやりたいことを実現する方法を身に付ける。
(これはジュニアリーダーの活動にも言える。)



iv. ベンチャーの活動

- 3. 活動チームの活動
(ハイアドベンチャー)
- ジュニアリーダーの活動、隊活動で身に付けたプロジェクト法を活用して自分の興味に応じた高度な専門性を持った活動に挑戦する。
- 活動の単位は個人ではなくチームである。



iv. ベンチャーの活動

- 活動チームの活動は、個人の興味から出発する。
- 決して指導者の強要から行う活動ではない。
- 活動チームの活動が行われるためには自分のやりたいことを持つことと、活動の方法を知り、実行できる技能を持つことである。
- 活動の方法とは、プロジェクト法である。
- プロジェクト法は先輩から受け継ぐものである。



iv . ベンチャーの活動

- ベンチャーの活動の単位はグループであり個人ではない。
- 富士挑戦プロジェクトは、個人の進歩の総括であるが、ベンチャーの活動の総括ではない。
- ベンチャーはプロジェクトをするのではなく活動をするのである。
- 活動の方法がプロジェクト法なのである。
- 実践躬行（アクティビティー・ファースト）である。



iv . ベンチャーの活動

- 失敗を恐れない。
- 指導者はスカウトの失敗を許容し受容する。
- 失敗から学び、失敗から成長する。失敗を許容しあい、失敗を楽しめる文化を育むことが肝要。
- 自発的な活動の成功は、何より忍耐が必要である。多くの失敗から一つ一つ学び取ることで成長する。
- 失敗は成功の母なのである。



iv . ベンチャーの活動

- ベンチャーの活動に決まった形はない。
それぞれの隊にあった運営が求められる。
- ベンチャースカウトに必要なものは活動の仲間である。
- 指導者は、活動に自由を与えるのが責務である。
- 指導者の役目は、活動の環境を整えることである。
- スカウトハンドブック・アドバンスにはベンチャー活動のヒントが数多く書かれてる。



V.進歩・進級促進のために

富士スカウトへの道

- 富士スカウト章取得への道のりはいくつもある。
- ジュニアリーダーの活動、隊活動、活動チームの活動のどれを選択しても取得することができる。
- 個人の進歩は、そのスカウトの興味と所属する隊の状況に応じて最も効果的に取り組みことが大切。
- 最も効果的とは、スカウトの興味に委ねること。



Ⅴ.進歩・進級促進のために

- ・スカウトハンドブックはすべてのスカウトが富士スカウト章を取得できることをベースに開発しています。
- ・新進歩課程での富士スカウト章課目に新しい「公民章」が取得要件となりました。
- ・公民章取得の意味はスカウト教育で良き社会人の具体像として公民でなければいけないということを示しています。



Ⅴ.進歩・進級促進のために

- ・ハンドブックを読み通すことで公民となれるように導いています。

アドバンス 第6章

①公民 P156

「自分自身の持ち場を守る」



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

Ⅴ.進歩・進級促進のために

- ・ 公民への成長には4つの柱をもって教育されます。
- ・ 1. 人格
- ・ 2. 健康
- ・ 3. 知識・技能
- ・ 4. 奉仕



Ⅴ.進歩・進級促進のために

- ・新進歩課程はスカウト**教育の4本柱**に連動した細目で開発されているのでスカウトハンドブックも**教育の4本柱**に沿った構成になっています。
- ・**進歩課程とハンドブックを確認してみましよう。**



Ⅴ.進歩・進級促進のために

2大制度を活用しましょう。

- ・ 班制度を活用して「自分の持ち場を守る」ことを学びます。
- ・ 先輩が後輩へお世話することで奉仕の精神を身に付けます。
- ・ 進歩制度を活用してスカウトに活動の意欲を持たせます。
- ・ 進歩するたびに出来ることが増え活動の楽しみが増すことを理解させます。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

V.進歩・進級促進のために

スカウトたちの4つの柱を育成しましょう。

- ・ 人格、健康、知識・技能、奉仕
- ・ 指導者はスカウト一人一人の人格に対してしっかりと向き合い公民となるべき潜在している資質を引き出していくように影響しなければなりません。
- ・ 進歩制度は、活動促進のエッセンスであると同時に良き社会人・公民への道しるべです。スカウト一人一人の内なる可能性を引き出すカギとなるでしょう。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

V.進歩・進級促進のために

- ・スカウトハンドブックの中にみるマサヒロの成長の物語

「おはよう、お父さん。ヤッター！今日からぼくはボーイスカウトだ。」

どこにでもある日常のスカウティングの風景の中、この運動に参加した一人一人に成長の物語がある。

ときに順風満帆に、ときには高く険しい茨の道を、壁にぶち当たるかもしれない。そんなスカウトの成長の物語を見守る指導者に必要なことは？



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

V.進歩・進級促進のために

- 個人作業

スカウトハンドブック・ベーシック第5章

「キャンプファイア物語 5」 P191を読んで

活動と進級の関りで感じたことを箇条書きしてください。



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト

スカウティングはゲームである。

スカウティングに自由を与えう。

そして活動に翼を与えよう。

